

おやすみなさい

高橋悠治



唄
三絃

すがたをあらわして いたもの—がすっぽりうみに かく れてしま うこと が あるよう

に ひと は ふとん に は いり ねむ ります ぬれて しずんで

われを わすれて わたしたち うま れた

その 日 から ねむ る こと を けい こ して きま した

それでも じょうずには ねむれないことが あります 今夜は いか

—がですか ふとんから やつ と かおだけだして それさえ

あた まからかぶったりして ひとは ねむります よいゆめを

みま しょう 財産も 地 位も 衣装も もちこめ

ない ふか いやみ—の なかで みんな どんなにやさしく あつ

く はげしく いきて— きたこと でしょう はだかのしまに ふ

か い よるが おとずれ て います 眼 を つ むりましょ あした が

くるまで おや すみ なさい

瀬海テレビ クロージング 60秒より

おやすみなさい

石垣りん

おやすみなさい。

夜が満ちて来ました

潮のように、

ひとりひとは空に浮かんだ

地球の上の小さな島です。

朝も 昼も 夜も

毎日

何と遠くから私たちを訪れ

また遠ざかって行くのでしよう。

いままで姿をあらわしていたものが

すっぽり海にかくれてしまうこともあるよう

に、

人は布団に入り

眠ります。

濡れて、洗んで、我を忘れて。

私たち、生まれたその日から
眠ることとせいのことを来ました。
それでも上手には眠れないことがあります。

今夜はいいですか？

布団から、やつと顔だけ出して
それさえ、頭からかぶつたりして
人は、眠ります。
良い夢を見ましょう。

財産も地位も衣装も、持ち込めない
深い闇の中で
みんなどんなに優しく、熱く、激しく
生きて来たことでしょう。

裸の島に、深い夜が訪れています。
目をつむりましょう。
明日がくるまで。

おやすみなさい。